

2024 年の活動を振り返って

毎年の年末には、研究室日誌のページで、その年の音楽とオーディオの活動を回顧してきました。本年も同様に 2024 年の回顧を行います。

2013 年にスタートした本 HP も 11 周年を迎えることになりました。本年も昨年に引き続き、音楽活動やオーディオ活動は新型コロナ感染に注意しながらの活動となりました。

コンサートは、近隣のホールなど最小限に留め、配信頼りになりました。配信は、本年もベルリンフィルデジタルコンサートホールの他、東京春の音楽祭、デジタルサントリーホールやコンサートヘボウの配信サイトである CONCERTGEBOUWORKEST や NHK プラスの配信、Spotify Connect などは変わりませんが、昨年に引き続き、ドイツグラモフォンの配信チャンネル「STAGE+」が主要な音源の位置を占め、各地の音楽祭のライブ収録や過去の歴史的な演奏の収録のアルバムなど、豊富で良質のコンテンツに満足しています。

オーディオのイベントでは、6 月の OTOTEN の配信の受信や 11 月の大阪ハイエンドオーディオショーやシمامセンの試聴会に参加し、最新の情報を得るよう努めました。ESOTERIC や SOULNOTE が、イコライザーカーブや位相特性の対応に乗り出したことは注目すべきことです。また、シمامセンに製品受け取りをかねて訪問し、アナログ盤や CD の位相特性を展示のハイエンド機器で確認させていただきました。

ながらく途絶えていたオーディオ仲間との往来も少しずつ復活させ、下記にありますようなシステムの改善の確認をしていただくとともに、オーディオ仲間の蒐集された古今の名盤を聴かせていただく機会もありました。

オーディオ関係では、引き続き ZANDEN のフォノイコライザー Model120 の活用が進み、昨年のもーツアルトのアナログ盤に引き続き、バッハのアナログ盤を集中的に試聴しています。アナログ盤や CD の購入は最小限に留めています

が、コンサートやオーディオフェアの機会を捉えて目ぼしいものを選んで購入しています。

アナログ再生関係では、LINN LP-12 のフォノケーブルのバランス化を行い、フォノイコライザーZANDEN Model 120 にバランスアナログアキュライザー経由でバランス入力できるようにしました。ZANDEN Model 120 の仮想アース Crystal E の接続には、アースケーブルにアースアキュライザーを使用しました。また、ターンテーブルシートに Magic Mat II を導入しました。レコードアンチスタティックやアームダンパーは後述します。上記に合わせて、ThorensTD124 や Garrad401 も設置個所の変更やカートリッジの変更その他 LP-12 と同様のレコードアンチスタティックやアームダンパーの適用を実施しました。

デジタル関係では、大きな進展がありました。その一つは、EMT981 のバランス化で、TruPhase、バランスアナログアキュライザー、XLR リベラメンテなどで、EMT981 からアンプまでオールバランス接続を実現し、TruPhase による位相反転も容易になりました。EMT981 のトレイに CD アンチスタティックを貼り付ける効果も認めています。

もう一つのデジタル関係の進展は、IO データ機器のオーディオ用ドライブの HFAD10-UBX 導入で、HFAS10-S1 との組み合わせで CD や MQA-CD の再生や CD のリップングを行えるようになり、これまでの PC 用ドライブから格段の音質向上が得られました。また、HFAD10-UBX と PC との組み合わせで DVD 再生も可能です。HFAD10-UBX のトレイに CD アンチスタティックを貼り付ける効果も認めています。

仮想アース関係では、光城精工の Crystal EpY-G を導入し、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に接続し、顕著な効果を得ました。またアースケーブルとしてアースアキュライザーを導入し、既存の Crystal E との接続に適用しました。

インフラノイズからの感想文の景品提供やブログで公開した情報にもとづき、種々の検討も実施しました。CD クリーナー、レコードアンチスタティック、CD アンチスタティック、アームダンパー、フェルトダンパ LAN 端子、AV ドーナ

ッツなどがそれで、インフラノイズらしい独創的な着想もみられ、中には製品化しても良さそうなものがありました。

オーディオ資料室とオーディオ論壇のページには、オーディオにおけるコンプレックス、電磁波の吸収遮蔽技術、CD再生システムの系譜、配信音源再生への対応、アナログシステムの変遷とEQ特性、EQ特性の対応の経過などをまとめて掲載し、MQA-CDリスト、アナログ音源特性表、Digital音源特性表、Old EQ特性などの資料も掲載しました。さらに次週、これまでのオーディオ再生上の悩みや未解決の問題をまとめたオーディオ再生上のやっかいな問題も掲載します。

来年度の目標は、これまで同様、音楽活動やオーディオ活動を感染対策に留意しながら継続していくことです。変異が繰り返される新型コロナやインフルエンザなどの感染防止に関して重々注意され、新しい年を迎えられることを祈念しております。

以上